

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

沖縄県本島中部地区

策定主体：中部地域さとうきび増産プロジェクト会議

うるま市、沖縄市、宜野湾市、浦添市、嘉手納町、北谷町、西原町、読谷村、北中城村、中城村

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産(策定時)	159	83	682	924	7.4	4.5	5.1	5.4	11,822	3,763	34,712	50,298
平成 22 年産 (目標)	157	83	670	910	7.9	5.5	6.4	6.7	12,475	4,539	43,897	60,912
(実績)	149	100	552	802	6.7	5.2	5.5	5.7	10,018	5,234	30,331	45,583
(達成度 (%))	(95.0)	(121.0)	(82.4)	(88.1)	(85.0)	(94.7)	(85.8)	(84.8)	(80.3)	(115.3)	(69.1)	(74.8)
平成 27 年産 (目標)	152	80	665	897	8.0	5.7	6.7	6.8	12,218	4,519	44,314	61,051
平成 26 年産 (実績)	147	84	431	662	5.7	3.7	4.4	4.6	8,383	3,089	18,809	30,282
(達成度 (%))	(96.8)	(104.5)	(64.8)	(73.8)	(71.2)	(64.9)	(65.1)	(67.3)	(68.6)	(68.4)	(42.4)	(49.6)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	4	—	3	
平成 22 年度 (目標)	10	—	5	
(実績)	20	—	11	
(達成度 (%))	(200.0)	—	(220.0)	
平成 27 年度 (目標)	11	—	5	
平成 26 年度 (実績)	2	—	5	
(達成度 (%))	18	—	(100.0)	

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・ほ場整備、かんがい排水施設整備の遅れで小規模ほ場が多く、機械化体系が進んでいない。
- ・都市化の進行、農家の高齢化及び農家数の減少によって耕作放棄地が増加している。
- ・肥培管理の遅れにより株出単収の低下等、生産量が減少している。

② 課題に対する取組内容

- ・規模拡大農家への農地再生化支援、遊休地解消事業の実施
- ・さとうきび生産法人の生産状況、経営概況に関する実態把握及び経営改善支援
- ・ハーベスタをはじめとする様々な農業機械の導入、作業省力化の推進及びオペレータの育成
- ・防風対策の実施
- ・各市町村さとうきび協議会、生産組合、生産法人連絡協議会、機械士協議会、さとうきび研究集団への組織活動支援
- ・株出管理（施肥、除草、病虫害防除、地力増進、根切り、深耕、培土等）の栽培管理技術に関する展示ほの設置と実演会、講習会の実施
- ・堆肥施用の推進
- ・採苗ほの設置と種苗の供給
- ・かん水機器の導入と、かん水実演会の実施

③ 解決した課題(一部改善された課題)

- ・優良農家の規模拡大
- ・オペレータの技術向上
- ・機械収穫率の増加
- ・優良種苗の普及と供給
- ・堆肥投入による地力維持、単収向上

④ 依然として残っている課題

- ・遊休地の解消と農地のスムーズな流動化
- ・水不足地域における水源の確保、既存のかんがい施設の有効利用
- ・機械化に対応するための農地集積
- ・受託組織の活性化やオペレータ確保等を含めた農作業受委託システムの再構築
- ・農作業の省力化に必要な農業機械の導入、活用
- ・収穫後の適期肥培管理の遅れによる単収低下対策
- ・地域のさとうきび生産を維持するために必要な担い手の確保
- ・栽培条件に応じた品種の普及と奨励
- ・緑肥、堆肥を活用した土づくりの推進
- ・さとうきび共済加入の推進

⑤ 新たに生じた課題

- ・イネヨトウへの対策

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	147	84	431	662	5.7	3.7	4.4	4.6	8,383	3,089	18,809	30,281
平成 28 年度 (目標)	118	82	465	665	5.9	4.0	4.5	4.7	6,934	3,283	20,755	30,972
平成 29 年度 (目標)	152	84	432	668	6.0	3.9	4.6	4.8	9,120	3,276	19,872	32,268
平成 30 年度 (目標)	154	84	433	671	6.1	4.0	4.7	4.9	9,394	3,360	20,351	33,105
平成 31 年度 (目標)	156	84	433	673	6.3	4.1	4.9	5.1	9,828	3,444	21,217	34,489
平成 32 年度 (目標)	158	84	434	676	6.4	4.2	5.0	5.2	10,112	3,528	21,700	35,340
平成 37 年産 (目標)	171	84	437	692	7.1	4.6	5.5	5.8	12,101	3,864	24,035	40,000

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	2	—	5	10
平成 32 年度 (目標)	11	—	5	10
平成 37 年度 (目標)	11	—	6	10

(3) 目標達成に向けた取組方向

- ・農家との意見交換や情報交換をより深める仕組みの構築
- ・さとうきび農家の経営向上に必要な目標の明確化 (単収向上、生産コストの削減、経営状況の把握、農作業の省力化等) と実現に向けた取り組み
- ・さとうきび対策室、さとうきび生産法人、機械士協議会、農作業オペレータの連携強化による農作業受委託の仕組みの再構築
- ・各関係機関等で所有する農業機械や農業資材、または土壌改良資材となり得る有機物の活用
- ・大規模家畜農家との連携による耕畜連携システムの確立
- ・農地中間管理機構、農業委員会等との連携による遊休地の解消、機械化に対応した農地集積、水資源の確保、農道、防風林の整備
- ・各市町村さとうきび協議会、生産組合、さとうきび研究集団、機械士協議会、さとうきび生産法人及び生産法人連絡協議会等組織の活性化
- ・関係者間の密接な情報交換による各種事業、新品種等の導入
- ・担い手確保対策の実施

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考						
<p>① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道に隣接していない原料搬出の困難な未整備ほ場ではハーベスタ収穫できないため、高齢化に伴い遊休農地化する事例がある。 ・作業受託組織（農業機械銀行等）が無く、生産法人も収穫作業中心となるためオペレータが不足し、適期作業を実施できない状況である。手刈り作業においては、作業請負班による収穫作業が進められている。 ・生産及び受託の担い手として生産法人の育成を地域において検討する。併せて、機械収穫困難な地域での受託組織の整備が必要である。 <p>【現状】 <担い手育成の状況></p> <table border="1" data-bbox="409 826 887 927"> <tr> <td>認定農業者数（経営体）</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>生産法人数（法人）</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>法人構成員数（名）</td> <td>7</td> </tr> </table> <p>①労働時間の増減と要因 機械化の進展で、植付と収穫の作業労働時間は減る傾向にあるが、一部未整備地域では面積規模が小さく、機械作業が困難であるため、人力に頼らざるを得ず、省力化できない。</p> <p>②耕作放棄地の実態：166ha</p>	認定農業者数（経営体）	2	生産法人数（法人）	5	法人構成員数（名）	7	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒蕪地、遊休地の解消 ・農道整備に向けた協議 ・農地のスムーズな流動化 ・作業受託組織の整備と支援 ・機械化に対応するための農地の集積、再整備 ・さとうきび生産法人の活性化 <p>【今後5年間の取組目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①遊休農地対策 ②農道整備、農地集積についての協議 ③農地流動化対策 ④作業受託組織整備、活性化 ⑤さとうきび生産法人への経営管理支援 	<p>市町村農業委員会、市町村耕作放棄地対策協議会との連携</p>
認定農業者数（経営体）	2								
生産法人数（法人）	5								
法人構成員数（名）	7								

<p>② 農業共済制度への加入促進</p>	<p>【課題】</p> <p>① 農道に隣接せず機械管理や原料搬出が困難なほ場がある。</p> <p>② 製糖期には生産法人、受託組織ともに収穫作業が中心となるためオペレータが不足し、適期管理作業を実施できない状況。</p> <p>③ 高齢化により、作業委託の需要は増していくと考えられるため、農作業受委託システムの強化が必要不可欠となる。</p> <p>④ 燃料費や資材費の高騰により経営状況が厳しく、法人等については経営管理能力の向上が必要である。</p> <p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の経営が零細なため共済加入への意識が低い ・ 単収が高く被害のない農家、無事故農家において不公平感がある。 ・ 加入申込はしたが掛金納入期限までに支払えなく、やむなく契約解除する農家がある。 <p>【現状】</p> <p><H27年度共済加入状況></p> <table border="1" data-bbox="409 935 869 1086"> <tr> <td>共済加入戸数(戸)</td> <td>531</td> </tr> <tr> <td>戸数加入率(%)</td> <td>35.2</td> </tr> <tr> <td>引受面積(ha)</td> <td>287</td> </tr> <tr> <td>面積加入率(%)</td> <td>48.4</td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の経営が零細なため、共済加入への意識が低い。 	共済加入戸数(戸)	531	戸数加入率(%)	35.2	引受面積(ha)	287	面積加入率(%)	48.4	<p>【計画】</p> <p>① 耕作放棄地解消事業等を活用した耕作放棄地対策の実施</p> <p>② 農道整備等に向けた協議会の開催</p> <p>③ 農地流動化促進・相談方法の確立 (現役引退前の農家への働きかけを中心とした)</p> <p>④ 新規オペレータの開拓</p> <p>⑤ オペレータ技術向上研修の開催</p> <p>⑥ 農業機械士の勧誘</p> <p>⑦ さとうきび生産法人を対象としたコンサルテーションの実施</p> <p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共済加入率向上に向けた取り組み <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共済加入率の増加 <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さとうきび増産プロジェクト会議構成員を中心に連携し、制度普及と加入促進に努める 	
共済加入戸数(戸)	531										
戸数加入率(%)	35.2										
引受面積(ha)	287										
面積加入率(%)	48.4										

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																																
① 作型の選択	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、株出後の栽培管理が不十分な農家が増えてきており、株出単収が減少していることから、実演会や講演会等を通じて株出管理の重要性をPRしてきた。 <p>【現状】</p> <p><さとうきび作型別収穫面積割合の推移(%)></p> <table border="1" data-bbox="407 625 1028 759"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22年度</th> <th>H23年度</th> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>18.6</td> <td>16.7</td> <td>18.4</td> <td>17.0</td> <td>22.2</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>12.5</td> <td>13.3</td> <td>16.6</td> <td>10.3</td> <td>12.7</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>68.9</td> <td>70</td> <td>65.0</td> <td>72.7</td> <td>65.1</td> </tr> </tbody> </table> <p><さとうきび単収の推移(t)></p> <table border="1" data-bbox="407 836 1028 970"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22年度</th> <th>H23年度</th> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>6.7</td> <td>4.2</td> <td>5.1</td> <td>5.4</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>5.2</td> <td>3.7</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>5.5</td> <td>3.5</td> <td>3.6</td> <td>4.3</td> <td>4.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 早期のほ場更新に向けた取り組みの強化 ② 収穫直後の株出管理の徹底 		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	夏植	18.6	16.7	18.4	17.0	22.2	春植	12.5	13.3	16.6	10.3	12.7	株出	68.9	70	65.0	72.7	65.1		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	夏植	6.7	4.2	5.1	5.4	5.7	春植	5.2	3.7	3.1	4.1	3.7	株出	5.5	3.5	3.6	4.3	4.4	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫体系、土壌、品種、栽培管理に合った作型の奨励 ・ 早期ほ場更新の推進 ・ 収穫直後及び生育初期の株出管理徹底 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にあった作型の検討 ・ 株出後の栽培管理の徹底 <p><さとうきび作型別面積割合の目標(H32年度)></p> <table border="1" data-bbox="1153 721 1442 855"> <thead> <tr> <th>作型</th> <th>面積割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>23.4%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>12.4%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>64.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p><さとうきび単収の目標(H32年度)></p> <table border="1" data-bbox="1153 916 1417 1050"> <thead> <tr> <th>作型</th> <th>単収</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>6.4t</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>4.2t</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>5.0t</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市町村生産振興対策協議会での作型検討 ② 実演会、講習会、巡回指導による早期株出管理の推進 	作型	面積割合	夏植	23.4%	春植	12.4%	株出	64.2%	作型	単収	夏植	6.4t	春植	4.2t	株出	5.0t	
	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度																																																														
夏植	18.6	16.7	18.4	17.0	22.2																																																														
春植	12.5	13.3	16.6	10.3	12.7																																																														
株出	68.9	70	65.0	72.7	65.1																																																														
	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度																																																														
夏植	6.7	4.2	5.1	5.4	5.7																																																														
春植	5.2	3.7	3.1	4.1	3.7																																																														
株出	5.5	3.5	3.6	4.3	4.4																																																														
作型	面積割合																																																																		
夏植	23.4%																																																																		
春植	12.4%																																																																		
株出	64.2%																																																																		
作型	単収																																																																		
夏植	6.4t																																																																		
春植	4.2t																																																																		
株出	5.0t																																																																		

<p>② 気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実情に合わせたかん水条件の早急な整備確保で地域間差を解消し、生産量を拡大する必要がある。 ・ 農地防風林整備が約 20%と低いため、事業整備の推進と共に、潮風害発生地域を含む地域全体に防風林の重要性を啓蒙しながら育成する必要がある。 <p>【現状】 <農業基盤整備の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ほ場整備率： 50.4% ②畑地灌漑整備率： 33.1% ③水源整備率： 38.5% <p>※平成 26 年度までの実績見込み</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①かん水用資材が不足している。 ②水源の確保が困難な地域がある。 ③防風林がない畑が多い。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かん水用資材の導入 ・ 現在ある水資源を最大限に活用する ・ 水が少ない地域における水資源の確保検討 ・ 防風林の育成 <p>【目標】 <農業基盤整備の目標（H33 年度）></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ほ場整備率： 50.9% ②畑地灌漑整備率： 43.8% ③水源整備率： 39.8% ④防風林の整備推進：6,581m、一式 ⑤事業等を利用したかん水用資材の導入 <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①かん水資材検討会の実施 ②かん水督励キャンペーンの実施 ③水資源確保に向けた協議会の開催 ④防風林栽培講習会の開催 	
<p>③ 機械化一貫体系の確立</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全般に基盤整備率が低く、傾斜地で一筆のほ場規模が小さいため機械化作業の効率が悪い。機械化一貫体系を実施する条件が整っていない。 ・ 全茎式プランタの利用農家は増えてきたが、ハーベスタ収穫の稼働率が低い状況にある。 ・ 生産法人は基本的には自社生産を中心として経営安定を図る必要があり、地域の収穫、肥培管理等の受委託作業については新たな組織育成を図る必要がある。 ・ 肥培管理作業のためのオペレータが不足している。 ・ 株元への土入れ培土など基本技術の実施が不十分で機械収穫時に欠株発生の原因となっている。 ・ 機械化収穫を前提とする肥培管理技術について実演会等を継続して普及啓蒙する必要がある。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械化に対応した農地集積についての検討 ・ 各地域における農業機械の導入、活用の検討 ・ 農業機械整備、操作技術の向上 ・ 農作業安全の奨励 ・ 無脱葉収穫の推進 	

【現状】

<ハーベスタの稼働率>

	H21	H22	H23	H24	H25
ハーベスタ 稼働台数(台)	18	20	26	35	29
ハーベスタ 収穫面積(ha)	200	214	168	191	169
ハーベスタ 収穫率(面積)	23.7	26.7	23.0	26.5	27.1

【課題】

- ①機械化に適さないほ場がある。
- ②農作業の安全確保に向けた取り組みが必要。
- ③平成28年度のうるま市への集中脱葉施設の移設に伴い、無脱葉収穫の推進を図る必要がある。

【目標】

<ハーベスタ稼働率の目標(H28~H32)>

	H28	H29	H30	H31	H32
ハーベスタ 収穫率(面積)	46.0%	47.0%	48.0%	49.0%	50.0%

- ①農作業事故の減少

【計画】

- ①農地集積に関する検討会の開催
- ②生産組合毎に機械導入検討会を開催
- ③農家向けの農業機械整備、操作実習を開催
- ④講習会等による農作業安全の意識向上
- ⑤無脱葉収穫についての周知徹底

④ 地力の増進

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・ゆがふ製糖北地区(旧球陽製糖)管内では、地力向上による単収向上が課題であり、堆肥の廉価安定供給を継続する必要がある。
- ・ゆがふ製糖南部地区(旧翔南製糖)管内では集中脱葉装置向け無脱葉原料の搬入により有機物の持ち出しで地力低下が懸念され、バガス堆肥の供給を継続する必要がある。

【現状】

- ・中部地区は、島尻マージ、ジャーガル、国頭マージのそれぞれのほ場が存在する地域である。
- ・地力向上に向け堆肥散布への助成や、施肥方法に関する展示ほの設置、現地検討会、講習会の開催や緑肥の普及などを図ってきた。

【取組の方向】

- ・堆肥散布、緑肥栽培等の推進
- ・施肥方法の改善
- ・土作りに利用できる有機物の検討

【目標】

- ①堆肥散布、緑肥栽培農家数の増加
- ②施肥省力化の実現
- ③葉ガラ、フィルターケーキ、糞尿や酒粕等有機物の有効利用

<p>【課題】</p> <p>①堆肥散布、緑肥栽培等による地力向上</p> <p>②ほ場での施肥及び堆肥散布が重労働であり、労働力の確保が困難である。</p> <p>③集中脱葉施設の移設に伴い、葉ガラ等の有効利用が望まれる。</p>	<p>【計画】</p> <p>①堆肥散布実演会の開催</p> <p>②緑肥栽培についての冊子配布</p> <p>③肥料散布機械の普及</p> <p>④有機物を使用した展示ほ設置及び検討会開催</p>	
---	--	--

(3) 技術対策

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考
<p>① 栽培技術の普及等</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種苗ほの設置による苗の確保 ・ 一部地域ではかんがい施設が整備されており、夏植の単収も高いが、他の地区ではかんがい施設が無く、降雨に頼って植付を行う等の地域間差がある。かん水施設の整備を推進し、計画的な植付作業を行う必要がある。 ・ 本地域では株出栽培が主となっている。収穫後の株出管理については、重要性を認識しながらも受託組織が無いが、法人等があっても収穫優先のためオペレータが不足している地域が多く、作業が遅れている。農家の高齢化も管理作業の遅れに拍車をかけている。 <p>【現状】</p> <p>①かんがい施設の有効利用や適期株出管理の推進を進めてきた。</p> <p>②一芽苗等による欠株対策の普及に努めている。</p> <p>③株出管理時期にオペレータが不足しがちである。</p>	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低コストで省力的なかん水技術の導入 ・ 補植の実施による茎数確保と単収向上 ・ オペレータの発掘と機械操作技術の向上 ・ 基本技術の励行に向けたチラシ作成。 <p>【目標】</p> <p>①低コストで省力的なかん水技術の確立</p> <p>②ほ植実施農家数の増加</p> <p>③オペレータ数の増加</p>	

	<p>【課題】</p> <p>①かん水施設の利用率の向上 ②補植苗確保の体系化 ③株出管理作業が可能なオペレータの育成確保</p>	<p>【計画】</p> <p>①試験研究機関と連携したかん水技術の確立 ②ほ植方法の再検討とPR活動の実施 ③オペレータ確保会議の開催 ④オペレータ向け機械操作実演会の開催</p>																																																		
<p>② 優良品種の 選択・普及</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <p>①耐風性が弱く風折被害の多い F177 から早期高糖、多収、株出萌芽性に優れる品種への更新が必要である。 ②黒穂病に罹病しやすい Ni9 は特に、株出の萌芽位置の高い茎に発生しやすいので、収穫後の株揃えが必要だが、実施農家は少ない。 ③Ni9 から黒穂病抵抗性品種へ更新する。 ④Ni15 では株出萌芽の遅れ、Ni17 では黒穂病の発生に留意して栽培する。</p> <p>【現状】 <品種構成の推移></p> <p style="text-align: right;">単位：%</p> <table border="1" data-bbox="409 842 1057 1043"> <thead> <tr> <th></th> <th>F177</th> <th>NiF8</th> <th>Ni15</th> <th>Ni17</th> <th>NiTn20</th> <th>Ni21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>11.5</td> <td>25.9</td> <td>19.1</td> <td>8.2</td> <td>3.3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>10.2</td> <td>24.2</td> <td>20.1</td> <td>8.1</td> <td>4.7</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>9.2</td> <td>24.5</td> <td>18.4</td> <td>8.5</td> <td>4.7</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>5.6</td> <td>25.9</td> <td>14.3</td> <td>6.8</td> <td>4.9</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>5.9</td> <td>25.4</td> <td>12.2</td> <td>7.7</td> <td>5.3</td> <td>6.7</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2.4</td> <td>21.2</td> <td>12.1</td> <td>1.5</td> <td>6.7</td> <td>3.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <p>①収穫体系や土壌、作型等の違いに対応した品種の選定が必要。 ②株出が多く、品種の更新が進みにくい。</p>		F177	NiF8	Ni15	Ni17	NiTn20	Ni21	H21	11.5	25.9	19.1	8.2	3.3	—	H22	10.2	24.2	20.1	8.1	4.7	1.4	H23	9.2	24.5	18.4	8.5	4.7	3.0	H24	5.6	25.9	14.3	6.8	4.9	4.6	H25	5.9	25.4	12.2	7.7	5.3	6.7	H26	2.4	21.2	12.1	1.5	6.7	3.7	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期高糖性品種への更新 ・収量の多い品種への更新 ・株出萌芽性に優れる品種への更新 ・黒ほ病に強い品種への更新 ・種苗管理センターからの健全種苗普及継続 ・品種の特性を PR して、地域にあった品種を選択し、品種構成の適正化を図る。 <p>【目標】</p> <p>①品種更新について 病害虫に抵抗性のある品種の選択・更新</p> <p>②原苗ほ等の設置 原苗ほを継続して、無病健全苗を供給する。</p> <p>③実証ほ等の設置 地域に適した品種の普及を促進する。</p> <p>【計画】</p> <p>①品種更新、原苗ほ等の設置に関する情報交換会を定期的に行う。 ②優良品種の実証ほの設置と PR を継続する。</p>	
	F177	NiF8	Ni15	Ni17	NiTn20	Ni21																																														
H21	11.5	25.9	19.1	8.2	3.3	—																																														
H22	10.2	24.2	20.1	8.1	4.7	1.4																																														
H23	9.2	24.5	18.4	8.5	4.7	3.0																																														
H24	5.6	25.9	14.3	6.8	4.9	4.6																																														
H25	5.9	25.4	12.2	7.7	5.3	6.7																																														
H26	2.4	21.2	12.1	1.5	6.7	3.7																																														

<p>③病害虫対策</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度からのポジティブリスト制度の実施に伴い、周辺の他農作物への影響を考慮し、防除対策を徹底する。 ・黒穂病の防除については病害虫防除所作成のチラシを配布し、対策のPRに努める。 <p>【現状】</p> <p>①黒ほ病、白すじ病、梢頭部腐敗病やイネヨトウ、バッタ等の発生が見られる。</p> <p>②ガイダーもしくは野その一斉防除を行っている。</p> <p>③ドリフト対策があまり行われていない。</p> <p><イネヨトウ交信かく乱実証等実施状況></p> <table border="1" data-bbox="409 683 826 786"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26年度</td> <td>うるま市(伊計島)</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>うるま市(宮城島)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <p>①黒ほ病に弱い品種の品種更新</p> <p>②イネヨトウ対策</p> <p>③専用ノズルや散布方法の工夫等によるドリフトの低減</p>	年度	実施地区	H26年度	うるま市(伊計島)	H27年度	うるま市(宮城島)	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫に対応した品種の選択、更新 ・イネヨトウ、バッタ等の初期防除の徹底 ・ドリフト低減の周知、徹底 ・病害虫が発生し易い環境の改善 <p>【目標】</p> <p>①黒ほ病に対しては、抵抗性品種への更新、健全種苗利用、より簡便な発病株の処理方法を普及指導する。</p> <p>②イネヨトウ、バッタ、ガイダー等の害虫については、適正な薬剤防除と雑草防除等の環境改善によって密度低減を図る。</p> <p>③野菜等他品目との隣接地域では、さとうきび農家への適正農薬使用について周知徹底を図る。</p> <p>④ポジティブリスト制度の周知徹底を図る。</p> <p>【計画】</p> <p>①展示は設置</p> <p>②講演会開催</p> <p>③説明資料によるPR</p> <p>④巡回指導時の情報提供</p>	
年度	実施地区								
H26年度	うるま市(伊計島)								
H27年度	うるま市(宮城島)								

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について

<p>① さとうきび増産に向けた取組推進体制</p>	<p>会長 ————— 副会長 ————— 事務局 —————</p> <p>中部農業改良普及センター所長 J Aおきなわ中部地区営農振興センターさとうきび対策室長 中部普及農業改良普及センター農業技術班長</p> <p>< 構成組織 ></p> <ul style="list-style-type: none"> — 本島中部地域 10 市町村 — 中部地区さとうきび生産振興対策協議会 — J Aおきなわ中部地区営農振興センター さとうきび対策室 — ゆがふ製糖株式会社 — J Aおきなわ中部管内 12 支店 — 沖縄県農業共済組合中南部支所 — 中部農業改良普及センター 																										
<p>② 関係者の役割分担</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">参画機関</th> <th rowspan="2" style="width: 20%;">担うべき役割</th> <th colspan="3" style="width: 65%;">具体的取組方策</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">経営基盤の強化</th> <th style="width: 20%;">生産基盤の強化</th> <th style="width: 25%;">技術対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">中部農業改良普及センター</td> <td style="vertical-align: top;"> ① プロジェクト会議の事務全般 ② 生産技術に関する事項 ③ 事業導入に関する事項 ④ 生産性向上に関する事項 ⑤ 県行政との調整に関する事項 ⑥ その他生産組織に関する事項等 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 受託組織の育成 ② 農家及びさとうきび生産法人の経営調査、指導 ③ 担い手の育成 ④ 共済加入促進指導 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 展示ほの設置、指導 ② 品種構成の指導 ③ 技術講習、実演会 ④ 土壌診断 ⑤ 栽培技術支援 ⑥ 農家懇談会の開催 ⑦ 各種パンフレットの作成 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">各市町村</td> <td style="vertical-align: top;"> ① 国・県事業導入及び予算等の事項 ② 国、県との調整等 ③ さとうきび増産体制に係る事項 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 受託組織の推進 ② 共済加入の促進 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 防風防潮林の整備 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 展示ほの設置 ② 優良種苗の増殖普及 ③ 病虫害防除対策 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">ゆがふ製糖株式会社</td> <td style="vertical-align: top;"> ① 実証展示ほ等への協力 ② 品種導入時の技術に関する事項 ③ バガス、ケーキ等の供給等 ④ その他資材等の提供 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 生産法人、受託組織等への育成協力の促進 ② 共済加入の促進 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 車両、機械等の提供 ② 土づくり資材として、フィルターケーキ、バガス堆肥を供給 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 実証展示ほの設置 ② 新品種の普及拡大 ③ 優良種苗増殖供給 </td> </tr> </tbody> </table>				参画機関	担うべき役割	具体的取組方策			経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策	中部農業改良普及センター	① プロジェクト会議の事務全般 ② 生産技術に関する事項 ③ 事業導入に関する事項 ④ 生産性向上に関する事項 ⑤ 県行政との調整に関する事項 ⑥ その他生産組織に関する事項等	① 受託組織の育成 ② 農家及びさとうきび生産法人の経営調査、指導 ③ 担い手の育成 ④ 共済加入促進指導	① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証	① 展示ほの設置、指導 ② 品種構成の指導 ③ 技術講習、実演会 ④ 土壌診断 ⑤ 栽培技術支援 ⑥ 農家懇談会の開催 ⑦ 各種パンフレットの作成	各市町村	① 国・県事業導入及び予算等の事項 ② 国、県との調整等 ③ さとうきび増産体制に係る事項	① 受託組織の推進 ② 共済加入の促進	① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 防風防潮林の整備	① 展示ほの設置 ② 優良種苗の増殖普及 ③ 病虫害防除対策	ゆがふ製糖株式会社	① 実証展示ほ等への協力 ② 品種導入時の技術に関する事項 ③ バガス、ケーキ等の供給等 ④ その他資材等の提供	① 生産法人、受託組織等への育成協力の促進 ② 共済加入の促進	① 車両、機械等の提供 ② 土づくり資材として、フィルターケーキ、バガス堆肥を供給	① 実証展示ほの設置 ② 新品種の普及拡大 ③ 優良種苗増殖供給
参画機関	担うべき役割	具体的取組方策																									
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策																							
中部農業改良普及センター	① プロジェクト会議の事務全般 ② 生産技術に関する事項 ③ 事業導入に関する事項 ④ 生産性向上に関する事項 ⑤ 県行政との調整に関する事項 ⑥ その他生産組織に関する事項等	① 受託組織の育成 ② 農家及びさとうきび生産法人の経営調査、指導 ③ 担い手の育成 ④ 共済加入促進指導	① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証	① 展示ほの設置、指導 ② 品種構成の指導 ③ 技術講習、実演会 ④ 土壌診断 ⑤ 栽培技術支援 ⑥ 農家懇談会の開催 ⑦ 各種パンフレットの作成																							
各市町村	① 国・県事業導入及び予算等の事項 ② 国、県との調整等 ③ さとうきび増産体制に係る事項	① 受託組織の推進 ② 共済加入の促進	① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 防風防潮林の整備	① 展示ほの設置 ② 優良種苗の増殖普及 ③ 病虫害防除対策																							
ゆがふ製糖株式会社	① 実証展示ほ等への協力 ② 品種導入時の技術に関する事項 ③ バガス、ケーキ等の供給等 ④ その他資材等の提供	① 生産法人、受託組織等への育成協力の促進 ② 共済加入の促進	① 車両、機械等の提供 ② 土づくり資材として、フィルターケーキ、バガス堆肥を供給	① 実証展示ほの設置 ② 新品種の普及拡大 ③ 優良種苗増殖供給																							

	中部地区さとうきび 生産振興対策協議会	① 生産技術に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 生産性に関する事項全般 ④ その他生産組織に関する事項等	① 受託組織の指導 ② 農業経営調査等への協力		① 展示ほの設置、指導 ② 栽培暦の作成 ③ 病害虫対策 ④ 技術講習会、実演会 ⑤ 品種の導入、指導
	JA おきなわ (中部地 区営農センターさと うきび対策室・各支 店)	① 生産性向上の推進に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 農家への普及啓発活動等 ④ 農家への技術指導に関する事項 ⑤ 生産組織、受託組織に関する事 項 ⑥ 生産資材に関する事項	① 生産組織の育成 ② 受託組織の育成 ③ 共済加入の促進	① 機械等の事業導入 ② 生産資材等の提供	① オペレータの機械操作技 術の研鑽 ② 展示ほ調査協力 ③ 病害虫防除の推進 ④ 営農指導 ⑤ 講習会、実演会の実施
	沖縄県農業共済組合 (中南部支所)	① 共済加入率の促進に係る事項 ② 病害虫被害耕地への対応の PR	① 加入促進説明会 ② 個人別危険段階掛金率の 導入検討		
③ 毎年度の検証方 法・体制	増産プロジェクト会議の開催				

(参考情報)

1. 県（島）の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

【中部地域】

本地域は全域が都市計画区域に指定され、さらに中央部の比較的平坦な土地を嘉手納飛行場や普天間飛行場等の広大な米軍施設・区域が占め、土地利用上大きな制約となっている。

中部圏域の平成 25 年度における農業産出額は 115 億円で、県全体の 12.7%を占めている。今後も農業用水の確保など生産基盤の整備を推進し、特にきく、にんじん、かんしょ等重点的に推進する品目については、拠点産地の体制強化や新規の認定による産地形成・育成により、生産拡大とブランド化を図る。畜産については、豚、肉用牛など振興を図るとともに、環境に配慮した耕種部門との連携、堆肥供給等資源循環システムの構築を進める。

作物別の農業産出額は、花きが 36 億円、養豚が 22 億円、野菜 12 億円、さとうきび 11 億円、肉用牛が 11 億円である。

さとうきびは地域の関連産業への波及効果が大きく、中部地区農業の基幹作物として重要な役割を果たしている。作型別収穫面積では、平成 26/27 年 期 662ha のうち、夏植が 147ha(22%)、春植が 84ha(13%)、株出が 431ha(65%)で株出中心の栽培が行われている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

(単位：ha)

	耕地面積	作付面積	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	果樹	飼料作物	その他
H17	3,031	—	1,111	82	1	865	9	150	—
H18	3,036	—	1,097	104		256	—	—	—
H19	2,993	—	1,034	—		254	—	—	—
H20	2,967	—	1,036	—		252	—	—	—
H21	2,950	—	992	—	1	263	—	—	—
H22	2,875	—	924	—	2	249	—	—	—
H23	2,840	—	864	—		277	—	—	—
H24	2,807	—	827	—		304	—	—	—
H25	2,763	—	842	—		—	—	—	—
H26	2,686	—	641	—		—	—	—	—

※H19 年以後、品目によっては市町村統計が公表されていないため数値が把握されていない。

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t / 10a)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	159	83	682	924	74.199	45.271	50.918	54.424	11,822	3,763	34,712	50,298	14.40
H18	187	104	625	916	79.642	51.165	54.773	59.436	14,881	5,324	34,245	54,451	14.50
H19	181	101	582	864	71.525	51.484	56.077	58.773	12,943	5,216	32,625	50,785	14.90
H20	170	114	574	858	79.525	62.275	69.419	70.474	13,534	7,102	39,856	60,492	14.90
H21	177	92	574	843	68.639	47.873	52.867	55.640	12,175	4,398	30,344	46,917	14.90
H22	149	100	552	802	67.129	52.108	54.923	56.842	10,018	5,234	30,331	45,583	14.60
H23	122	97	512	731	42.105	36.523	34.682	36.165	5,139	3,530	17,757	26,425	14.30
H24	133	120	468	721	51.220	31.240	36.370	38.250	6,804	3,747	17,031	27,582	13.10
H25	106	64	454	624	54.450	41.000	43.350	44.990	5,746	2,610	19,664	28,020	14.70
H26	218	68	232	519	56.960	36.966	43.648	45.765	8,383	3,089	18,809	30,282	14.30

【年齢階層別農家戸数】

(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H19	12	28	153	384	1,217	1,794
H20	11	25	134	375	1,271	1,816
H21	8	29	139	391	1,362	1,929
H22	9	28	127	359	1,409	1,932
H23	8	29	108	364	1,483	1,992
H24	11	39	118	344	1,521	2,033
H25	9	32	97	301	1,421	1,860

【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	2,798	98	8	4	2,908
H18	2,751	87	8	2	2,848
H19	2,429	87	7	3	2,526
H20	2,485	93	7	6	2,591
H21	2,340	90	11	4	2,445
H22	2,207	101	6	5	2,319
H23	2,063	99	5	4	2,171
H24	1,932	101	8	2	2,043
H25	1,718	102	6	2	1,828
H26	1,665	100	10	1	1,776

【製糖工場の操業状況】

ゆがふ製糖北地区（旧球陽製糖）

	操業率（％）	操業期間（日）	歩留（％）	トラッシュ率（％）
H17	43.14	65	12.19	8.28
H18	51.73	69	12.42	8.85
H19	49.21	73	12.81	8.81
H20	60.58	85	12.75	8.43
H21	47.97	78	12.11	10.34
H22	41.68	73	11.89	10.00
H23	25.09	60	11.58	11.31
H24	23.96	55	11.00	10.01
H25	26.84	70	11.71	10.40
H26	27.23	63	12.30	11.56

ゆがふ製糖南部地区（旧翔南製糖）

	操業率（%）	操業期間（日）	歩留（%）	トラッシュ率（%）
H17	59.48	87	12.01	4.91
H18	60.46	91	11.86	5.43
H19	60.09	88	12.15	5.27
H20	70.19	100	12.00	5.16
H21	61.45	85	11.87	5.78
H22	56.13	89	12.09	5.00
H23	37.42	69	11.42	6.55
H24	38.45	69	11.69	4.91
H25	40.26	71	11.79	6.86
H26	38.61	71	11.96	6.52